

令和5年10月20日

志布志市立松山小学校



松山っ子

学校だより 10月

心がぐっとくる瞬間とは

校長 友生 雅夫

10月も残り10日あまりとなりました。中旬ごろからようやく過ごしやすい気候になってきました。勉強に、スポーツに、読書に、食欲に最適な季節です。いろいろなことを楽しめていけたらと思います。さて、先日、「燃ゆる感動かごしま国体」が開催されました。鹿児島県では、51年ぶりの開催ということで、県内各地で盛り上がりが見られました。また、鹿児島県勢も各種目で大活躍していました。3年延期となり、大会関係者も、選手も気をもむことが多かったと思います。中には、3年延期となり、選手あるいは開会式、閉会式のセレモニー関係者として出場できなかった方も多くいらっしゃるようです。いろいろな思いを感じ取ることができました。わたしは、期日前競技が実施されているとき、妻から、「ビーチバレーの女子の高校生に会った」話を聞きました。宮城県からの参加だったようですが、福岡空港まで飛行機で来て、そこから先生がレンタカーを運転し、志布志に来たとのことでした。「参加するだけでも大変」だと思いましたが、結果を見ると、ベスト8まで残っていたそうです。「本当にすごいね」と2人で話しました。各県を代表する選手の参加ですが、競技によっても、県によってもサポートに違いが見られるようです。ただ、どの選手も、「自分の県の思いを背負って」参加していました。その頑張る姿にたくさんの感動をいただきました。

感動というテーマで書いてみようと思います。今週、3、4年生が、市の音楽発表会の練習をしていました。初めての体育館練習ということで、最初は、緊張していました。途中、ピアノ伴奏に合わせて歌う場面があり、その歌声が、聞いていてわたしにすーっと入ってくる感じがしました。今まで練習を重ねてきた成果なのかなあと感じました。また、2年生の授業を見ていると、どの子も一生懸命音読に励んでいました。「本当に音読が上手になったな」と感心させられました。1年生には、病気で体調を崩し、長期入院している子供がいます。担任がタブレットなどを使い、保護者とその子供に連絡を取りながら授業をしていました。久しぶりに元気な姿を見ることができ、担任も学級の子供たちもとても喜んでいました。保護者もその子供も少し安心されたように感じました。なんとかして連絡を取りたいという担任の思いが伝わってきました。

朝、校庭に見ると、高学年、低学年が長縄に取り組んでいます。担任と、あるいは自分たちでそれぞれ目標を持ちながら続けています。一生懸命続ける姿、目標を達成できたとき歓声が上がる様子を見て、いいなあと感じるところです。

普段の何気ない生活の中で見られた自分の心がぐっときた瞬間です。そこには、一生懸命頑張る姿があったり、相手のことを思いやる気持ちがあったりと場面によって異なります。でも、そういう瞬間にたくさん出会っているわたしは幸せだと感じます。

授業の中で子供たちがつまづいている場面を見かけます。友達の説明に納得できず、再度説明を求める場面も見かけます。その真剣な表情もわたしは好きです。また、なかなか理解できなかったことが、説明を聞いているうちに「分かった」とか「納得した」という表情に変わったときの子供たちも好きです。自分も心がぐっときて、子供たち、先生方に元気をもらっています。わたし自身も子供たちの心にぐっとくるようにもう一工夫していきたいと思います。

